

三鷹市立第四中学校 令和5年度【英語】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○板書の内容だけでなく、教師の話聞き、大事だと思ったことは、自ら考えてノートにまとめるよう促すことができた。</p> <p>○ペア・グループワークを取り入れ、「学び合い」ができる雰囲気づくりに努めることができた。</p>	<p>【現状】 ○ウォームアップで取り入れているsingigng timeやBINGOなどを通して、自然と英語を学習する雰囲気に切り替えながら授業に取り組むことができています。 ○「話すこと」、「聞くこと」に積極的に取り組み、英語をつかってコミュニケーションをとろうとする姿勢がみられる。</p> <p>【課題】 ○「話すこと」に対して熱心に取り組むことができる生徒は多いが、「書くこと」に対して苦手意識をもっている生徒が多くいる。 ○家庭学習が不足していることから、語彙の不足、文法の知識や分構造の理解・定着が不十分である生徒が多くいる。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○「個別最適な学び」を意識した授業の展開が十分ではない。 ○生徒たちの「書くこと」に対する苦手意識を無くしていけるような授業づくりを十分に行うことができていない。</p> <p>【授業改善策】 ○デジタル教科書などを活用しながら、生徒が個別で音読練習等を行ったり、自分が気になることについて、調べたりすることができる時間を設ける。 ○年に3回程度スピーチテストを実施し、生徒がそれぞれ自分が伝えたい内容について自由に英文を書くことができるよう指導していく。 ○単元テストや長期明けのスプリングコンテストを実施することで、「書くこと」に対する苦手意識を改善していけるようにする。 ◎それぞれの状況に応じた家庭学習の方法などをできるだけ具体的に提示し、習慣的に取り組めるようにする。</p>
第2学年	<p>○言語活動を積極的に取り入れた文法を実際のコミュニケーション場面においてのように使用するかを繰り返し学ばせることができた。</p>	<p>【現状】 ○毎時間BINGOを行い、ヒアリング力を養っている。また、音読活動では、場面にに応じてジェスチャーなどを交えながらグループで工夫しながら練習に取り組んでいる。 ○「話すこと」、「聞くこと」に積極的に取り組み、英語をつかってコミュニケーションをとろうとする姿勢がみられる。</p> <p>【課題】 ○技能面において「話すこと」「聞くこと」が得意な生徒は多いが、「書くこと」「読むこと」に対しては苦手意識をもっている生徒が多くいる。 ○演習量が不足していることから、語彙の不足、文法の知識や文構造の理解・定着が不十分である生徒が多くいる。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○少人数のクラス分けが、均等割りなので、学力の高い生徒が低い生徒を教えており、人に教えることのメリット以上の負担があるように感じる。</p> <p>【授業改善策】 ○習熟度別のクラス分けも視野に入れながら行っていきたい。また、ワークシートなども、段階的にレベルをあげていくことで、生徒一人一人の定着度を測りながら授業を行いたい。 ○Unit毎(約2週間に1度ペース)に「単語テスト」を取り入れることで、書く練習を必然的に増やしていけるような要素を取り入れていく。 ○長期休暇明けに「スプリングコンテスト」を行うことで、まとまった数の語彙を定着させる。 ◎評価の内容などを具体的に伝え、家庭学習で取り組むことを明確にしていく。また定期的に単語テストや小テストを行い、家庭での学習を習慣化させていく。</p>
第3学年	<p>○定期的にスピーチテストを実施したことで、アイコンタクトや伝える工夫をして、まとまった英文を話すことのできる生徒が増えてきた。</p> <p>○授業に最初に繰り返し英単語テストを行うことで語彙力の定着が見られている。</p>	<p>【現状】 ○グループワークやペアワークなど積極的にコミュニケーション活動に取り組んでいる。 ○単語テストや小テスト、教科書の暗唱など意欲的に取り組む生徒が多く、基礎学力と定着している生徒が増えてきている。</p> <p>【課題】 ○定期考査などでは基礎的な問題に対する正答率は高いが、発展的な内容の「読むこと」「書くこと」の問題に対する正答率が大きく下がっている。 ○教科書の内容など簡単な英語の質問に答えることができる生徒が多いが、正確に文章を「書くこと」や「読むこと」を苦手とする生徒が多い。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○教え合いなどが多くみられる反面、「個別最適な学び」につながっていないことが多い。 ○単語を置き換えるなど、決まった文法事項を使った演習はできているが、自由に表現する活動が十分でない。</p> <p>【授業改善策】 ○単語テストや小テスト、教科書の暗唱など日常的にインプットする活動を行っていく。 ○ALTと協力し、グループワークやペアワークなど既習事項をアウトプットできる活動を多く取り入れる。 ○年に3回程度、スピーチテストを実施し、まとまった分量の英文を作り、発表する経験を積み重ねていく。 ○ICTを活用し、視覚的に理解しやすい教材の工夫や言語活動だけでなく、異文化理解にもつなげていく。 ◎評価の内容などを具体的に伝え、家庭学習で取り組むことを明確にしていく。また定期的に単語テストや小テストを行い、家庭での学習を習慣化させていく。</p>